

保護者 様



令和6年3月1日

我孫子市立根戸小学校
校長 角倉 千津子

令和5年度 学校教育活動(児童・保護者・教職員)アンケート集計結果のお知らせ

向春の候、皆様には益々ご健勝でお過ごしのことと存じます。

さて、12月に実施した教育活動アンケート(児童・保護者・教職員)の集計結果がまとまりましたのでお知らせいたします。また、今年度より記名式にした自由記述欄には温かい感謝の言葉をたくさんいただき、今後の励みとなりました。一方で、具体的なご意見や改善点等も多くいただきましたので、今後の学校運営の参考にさせていただきます。

また、昨年に引き続き児童、教職員はタブレット等を使用しての回答、保護者は家庭でインターネットを使用しての回答として実施しました。

各アンケート集計結果の分析

各項目の分析については、「あてはまる・概ねあてはまる・あまりあてはまらない・あてはまらない」の4つの観点のうち「あてはまる」と「概ね～」の合計値の割合(%)として記載し分析しました。

1 小中一貫教育について

	児童	保護者	教職員
①久寺家中学校区では小中一貫教育の充実に努めている。	/	64	90

我孫子市では、小学校を軸に幼稚園、保育園、中学校とのつながりをスムーズに行い、中学校区で「育てたい15歳の児童像」に向け幼保小・小中一貫教育を行っています。根戸小学校では、小中一貫教育として、Abiカリキュラムの他、久寺家中学校区のカリキュラムとして福祉教育を小中一貫カリキュラムとして活動を始めました。また、小中一貫便りを保護者向けに数回発行し、周知してきました。しかし、保護者のポイントを見ると十分な周知とはいえないため、小学校6年間の教育の積み重ねが小中一貫教育として実践されていることについて引き続き周知をしていきます。

2 学校生活全般について

※実際のアンケートでは、対象者に向けて言葉を変更しています。

	児童	保護者	教職員
①学校教育目標を知っている。	94	79	97
②子どもは、楽しく学校へ通っている	91	93	97
③子どもは、意欲的に学習し内容を身につけている	94	86	97
④自分や相手に思いやりを持つ心が育まれている	94	94	87
⑤子どもは、学校行事や体験的な活動に積極的に取り組んでいる	90	95	100
⑥子どもは、家庭や地域の中で進んで挨拶をしている	91	75	65
⑦子どもは、タブレットなど、ICT機器を使った学習を行っている	86	77	97
⑧子どもは、きまりやルールを守ろうとする意識が育っている	97	94	97
⑨学校は、子どもの心身の健康や学習、子育てについて保護者が相談できる機会を設けている	93	84	94
⑩学校は、子どもの悩みや相談に親身に対応し、いじめ防止に努めている	87	86	100
⑪学校は、熱心に授業に取り組み、子ども一人ひとりにきめ細やかな指導をしている	94	80	100
⑫学校は、教育活動の内容や児童の様子について学校便りやホームページ等で伝える努力をしている	79	82	100

⑬学校は、安心、安全について積極的に取り組んでいる	96	90	100
⑭学校、地域、保護者が連携して子どもを育てようとする見守り活動をしている	96	93	100

①学校教育目標を知っている

昨年度、児童のポイントが85%、保護者のポイントが67%と低かったことから、今年度は、学校目標の「よく遊び、よく学び、思いやりのある子」について、全校朝礼、言葉、掲示物、学校だより等で児童や保護者へお知らせしてきました。昨年度に比べ、児童や保護者のポイントがアップしていました。学校教育目標は、児童の進むべき道のゴールの姿なので、児童が目標を達成できるように努力していきます。一方、教職員への周知が100%に達してないのは大変残念なことでした。児童、保護者、職員が十分に学校教育目標を浸透できるよう、引き続き様々な機会に周知していきます。

③子どもは、意欲的に学習し内容を身につけている

保護者、教職員の間で、認識のずれがあります。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な体験活動が授業の中で行われてきました。児童は、体験的な活動について大変意欲的に進めています。しかし、知識を身に付ける学習や反復練習が苦手な児童もいるため、学習についての認識に差が生じたのではないかと考えます。6年生の全国学力学習状況調査においては全国平均を上回っているため、体験活動を知識に結び付け、更に意欲的に学習に取り組めるように努めてまいります。

④自分や相手に思いやりを持つ心が育まれている

学校では、いじめについてアンテナを高くして、児童の様子を見ているところです。そのため、友だち同士の関わり方や言動について、些細なことでも見逃さないように努力しているところです。引き続き、誰に対しても思いやりを持てるような行動がとれるように見守っていきます。

⑥家庭や地域の中で進んで挨拶している

昨年度同様に児童・保護者・教職員の間で、大きく認識のずれがあります。朝の正門での校長の挨拶や、生活委員会や安全管理員の挨拶から児童の学校生活が始まります。昼の放送では、挨拶の啓発活動を行っています。日常生活の中で児童自身が人に気づけたときは挨拶をしていますが、無意識にしていることがあります。挨拶をすることは人に対して、心も開くことだということも伝えていきます。また、教職員一同挨拶のモデルとなるように引き続き意識して取り組んでいきます。

⑦子どもは、タブレットなど、ICT機器を使った学習を行っている

文部科学省のGIGAスクール構想により、全国で一斉にタブレットを使った学習が始まりました。ここ数年コロナ禍だったこともあり、タブレットを使った学習を教職員が試行錯誤して進めてきました。タブレットを使うと効果的な学習、黒板を使ったり体験したりした方が効果的な学習など、様々な活動があります。また、状況に応じてオンライン授業を行うことも増えてきました。一方、タブレットの持ち帰りについては、様々な意見があり、学校として検討の必要性を感じているところです。現代社会では情報機器と生活が密接に関係しています。学校と家庭と双方で、効果的な使い方やルールについて考えていく必要があると感じています。

【終わりに】

今年度は、新型コロナウイルスが5類に移行したことを機に、様々な体験活動が行われるようになりました。児童の体験活動が増え、遊び、学習面や生活面で児童同士の関りが増えました。その半面、児童同士で折り合いをつけたり、解決したりする場面でもうまくいかないことも多くありました。児童同士で関わる経験が、小学校の時にいかに大切かということを感じた1年でもありました。

保護者の皆様からは、相談を直接していただいたり、授業参観や行事、ボランティア等で学校に足を運んでいただいたりしました。保護者の方とお会いして、直接コミュニケーションが取れるようになったことは、我々教職員にとってとてもありがたいことでした。今年度も、保護者の皆様には、たくさんのご理解とご協力をいただいたことに感謝申し上げます。